

住宅地にプルトニウム

東京・中目黒の防衛省施設

撤去求め署名

東京・目黒区中目黒にある防衛省の敷地に建設が計画されている「国際平和協力センター」についての住民説明会で、敷地内の施設に猛毒で核兵器に転用できるプルトニウム239を保管していることが明らかに、場などがある。



住民説明会で、「必要ないプルトニウムをなぜ保管している」と撤去を求める声が相次いだ＝7月15日

「国際平和協力センター」に関する説明会は、住民の要望でこれまで6月9日、7月15日の2回開かれていたが、そのなかで次の4つの問題・課題が明らかになった。

①土壌汚染されており、鉛、六価クロム等が基準値を大幅に上回っている。なぜ汚染されたのかの説明もなく、防衛省側は「場内のコンクリート槽に封じ込めた」と説明するが、環境への影響が懸念される。

②猛毒プルトニウム239を1972年9月から37年間保管。防衛省は「今は使っておらず、今後とも使うことはない」「厳重に保管しており、地震などでも安全に移すにも引き取り手がない」と回答しているが、早急に撤去すべきだ。

③国際平和協力センターは、御殿場市の駒門駐屯地に同様の施設があり、住民の「なぜ同じようなものを作るのか」との質問に対して、防衛省側が「どんな研究するかは議論中」などと説明するように、建設目的自体が不明確（そもそも国際平和協力海外派兵ではなく、武力は不要）。

④国際平和協力センターの建設費は31億9000万円。こうしたものに巨費を投じるのは税金の無駄遣いであり、問題。不要・不念のハコモノ建設はムダであり、直ちに中止すべきだ。

住民側のこうした指摘、追及に対し、防衛省側は答えることなく、「間もなく着工します」という態度。その後も地域住民は、防衛省に3回目の説明会開催を求め、①国際平和協力センターの建設中止、②協力センター、協力棟建設にあたり、目黒区と安全協定を結ぶこと、③プルトニウム239の撤去などを要請している。住民側はまた、目黒区議会に対して「国際平和協力センター239撤去することを求める意見書を提出する」陳情をしたが、採決されず「継続」になっている。

地域住民は、「プルトニウム撤去を求める実行委員会」を結成し、プルトニウム239の存在と、その危険性を訴えつつ、「陳情」に賛同する署名活動を行っている。

プルトニウム撤去を求める実行委員会では、署名への協力を求めている。「署名用紙」は、「新社会党めぐろ」のHP（ホームページ）からダウンロードできる。

問合せ ☎ & FAX 03 (3713) 3172

中目黒・防衛研究所新施設の説明を聞く会・中村